



What's up, OITA!

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

ホーバークラフト | 番船 到着!



ホーバークラフトの1番船「Baien (バイエン)」が大分県に到着、9月9日に納入式が開催され、10日には一般公開も行われました。客席は80席で、荷物や自転車、車椅子用のスペースも設けられています。最終的には3隻が納入され、大分空港(国東市)と西大分(大分市)を結びます。就航による大分空港へのアクセス向上、西大分地区の賑わい創出が期待されています。



県内のニュース

9月に起こった県内の出来事やニュースについてご紹介します。

- ・「大分名物を地球名物に」大分県、宇宙食試作品開発プロジェクト開始
- ・別府タワーが日本夜景遺産に 県内7カ所目、ライトアップ部門で認定
- ・NPO「ベップ・プロジェクト」が九州観光まちづくり大賞に アート活用評価
- ・大分市が「パートナーシップ宣誓制度」運用開始 一部行政サービス利用可能に
- ・温泉と音楽、全身に浴び盛り上がる 別府市のスパビーチで堀江氏主宰のフェス
- ・大分一モンゴル友好「空の旅」 清水元大使が企画、チャーター便初運航
- ・別府市がペット「同伴避難」専用の避難所を開設 テント内のケージで飼育管理
- ・「空飛ぶクルマ」県央飛行場で実証へ 大分県と法政大ベンチャーなど覚書
- ・大分県内企業、中途採用に力 経験に応じた枠設定、退職者の復職促す制度も
- ・大分県内の養豚場での豚熱ワクチン接種が完了 45農場の15万頭対象
- ・大分市に若手起業家育成施設がプレオープン 学生ら、将来の夢語り合う
- ・別府市のウクライナ避難民が稲刈り体験 日出町の農家が企画「支援の輪広がれば」
- ・「おんせん県おおいた」商標登録10年、全国に定着 新たな魅力づくり課題
- ・大分県内の基準地価28年ぶりに上昇 23年、コロナの影響和らぎ経済再活性化



食文化創造都市
臼杵
CITY OF
GASTRONOMY

ユネスコ食文化創造都市 臼杵

2021年11月、ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）への加盟が認められた臼杵市は、醸造業が1600年頃から始まり、人々が伝統を守りつつ、改良を加えてきた味噌・醤油・酒や、質素儉約の中で知恵を絞って生まれた郷土料理など、多様な食文化が発展してきたまちです。

近年では、こうした市民が大切に培ってきた食文化に加え、水の循環を大切に、有機農業や地産地消も推進しています。例えば、日本で唯一、市が草木等を主原料とした完熟堆肥を生産し、生命力のある土づくり環境を整備することで、生産者、消費者ともに食の重要性について理解を深めています。食の多様性・持続性を高めるこうした臼杵の活動は、SDGsの目標と合致し、持続可能な都市づくりにつながるものと考えています。

今後は、醸造・発酵産業と環境保全型農業、水産業、質素儉約の文化を中心とした臼杵市のブランド力を高め、これまでの取組を更に推進し、国際協力と経済成長の両面から食文化の発展に貢献するため、食文化創造都市の確立を目指します。

味噌・醤油



酒



有機農業



郷土料理



食文化創造都市臼杵に関する情報はコチラ→



臼杵市の各種イベントなど最新情報をお届けします→



LINE



Facebook

うすき竹宵 【とき】令和5年11月4日(土)、5日(日) 【ところ】二王座周辺

”うすき竹宵”は、「臼杵石仏」を造ったと言い伝えられている真名(まなの)長者(ちょうじゃ)伝説(でんせつ)を再現した儀式です。約2万本の竹ぼんぼりが城下町を優しく照らし、幻想的な雰囲気にも包まれるほか、オブジェや各種イベント、般若(はんにゃ)姫(ひめ)行列(ぎょうれつ)も楽しめます。

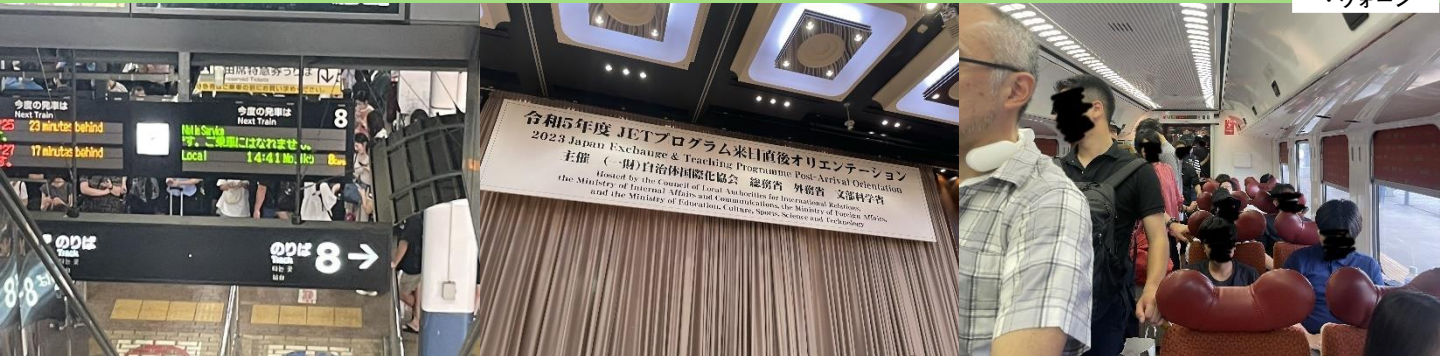


めじろんを
探してね!

and the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Welcome to Oita!

オースティン・ヴォーン



長い帰り道

毎年8月に、世界の色々な国から英語を母国語とする人を全国の学校や地方公共団体に配置する目的で日本政府の協力の下に実施されるJETプログラムで、新しい人々が大分にやってきます。少なくとも、普通でしたらそのはずですが、例のウィルスのせいでこの数年間の到着は手探り状態だったと言っても過言ではないかもしれません。しかし、今年は物事が計画通りに進んでくれて、8月にカナダ、南アフリカ、イギリス、アメリカなどといった国から26人の新しいJET参加者が東京に到着しました。そして、その人達を新しい故郷となる大分まで案内するために、僕も東京へ出発しました。今回のJET参加者は2つのグループに分かれて、ひとつは8月2日に来県する予定で、もうひとつは8月9日に来県する予定でした。最初のグループは特に問題もなく、僕と担当者が東京へ行き、わくわくしている新しい公務員の質問などに答え、無事に大分へ帰りました。記事にもならない、いたって普通の話ですね。ですが、第2グループの時は、全く違いました。僕がひとりて迎えに行くことになり、文字通り嵐の前の静けさでした。台風が北部九州付近まで接近して、僕が東京へたどり着けるかどうか確信がありませんでした。幸いなことに、僕が出発する時間には、飛行機はまだ運航していたので東京まで行けました。ただ、不幸なことに到着した途端、大分への飛行機全て欠航になり、何をしたらいいのかも分からず、東京に取り残されました。大半が日本へ行ったこともない14人と一緒に。

大分県本部では、担当者が旅行会社と一緒に僕たちを大分まで送る方法を探すのに必死でした。で、またの不幸。以降の大分への飛行機はもう全部満席でした。お盆の時期に重なり台風も来ていましたし、仕方ないと言ったら仕方ないかもしれません。というわけで、大分に戻る現実的な方法はただひとつ、新幹線しかありませんでした。

帰りは長かった。早朝、ホテルのロビーに集合し、新幹線に乗るために、新宿駅へ出発しました。ホテルの隣に駅直結の連絡地下道があったので、駅への案内は思ったより簡単でした。ただ、簡単なのはそこまででした。北九州で電車の乗り換えが必要なのですが、台風の影響で午前中の北部九州の電車は全て運転を見合わせていました。それだけではなく、多くの人が運休のせいで足止めされ、ホームは乗客で溢れていました。3時間後、なんとか電車に乗り込むことができましたが、通路にたくさんの人が立たされ、荷物置き場にも座っていました。めちゃくちゃでした。ですが、JET参加者たちは絆を深めることができ、大分への旅を楽しめたようです。そして、僕たち全員はきっとこの帰りの旅を一生忘れないでしょう。



Oita JETs Website
(Unofficial) 英語版





新しい故郷

全員が大分県に到着し、新しい生活に慣れるための時間が始まりました。例年であれば、新規JETオリエンテーションがあり、新しいJET参加者は地域のアドバイザーや県の取りまとめアドバイザー（大分県教育委員会のJETと僕）に会い、他のJET参加者とつながりを深めながら、大分での生活について学びます。しかし、残念なことに、ここ数年間はこのようなことがなかったため、JETは自分たちで新たにネットワークを築き、友達を作るしかなかったのです。言うまでもなく、さすがにこれはいいことではないので、今年は普段通りのオリエンテーションができたことを嬉しく思っています。以前、取りまとめアドバイザーのことを友達に聞いたことがあります、「なにそれ？」という答えが返ってくるが多かったので、今年からのJETには頼れる支援ネットワークがあるということがとてもうれしいです。

3つのプレゼンテーションがあり、1つは僕から新しい環境の基本について、2つ目は警察から一般的な安全や運転免許の取得について、最後に同じ取りまとめアドバイザーであるアッシュさんからJET参加者の大半が属するALT（外国語指導助手）の一日の仕事についての話の内容でした。

僕は、前任者がまとめた日本の公務員として働くことの特異性という面白いテーマについてプレゼンしました。例えば、「公務員には高い基準が課せられている」、「特別休暇を取る権利があるが、よほど切羽詰まった状況でない限り、年次有給休暇を使う」など。

警察官は、剣道をしたり、JETのみんなを笑わせながら、同時に法律についても教えてくれて安心させてくれました。

最後に、アッシュさんのプレゼンは、僕が説明できなかった、実際にどのような仕事をするようになるのか、をみんなが理解するのに本当に役立ったと思います。僕もJETプログラムの一員ですが、CIR（国際交流員）としての仕事は、ALTに期待されている仕事とは大きく異なります。新しい仲間のために、わざわざこのような素晴らしいプレゼンをしてくれたことにとっても感謝しています。でも、一番感謝しているのは、みんながお互いに話し、新しい絆を作る機会があったことです。このようなイベントが増えれば、大分JETはもっと強くなると思います。ま、少なくとも、みんなが僕の存在を知ることになったのは、ちょっぴりうれしいです。



WHAT'S UP, OITA!



왓츠업, 오이타!

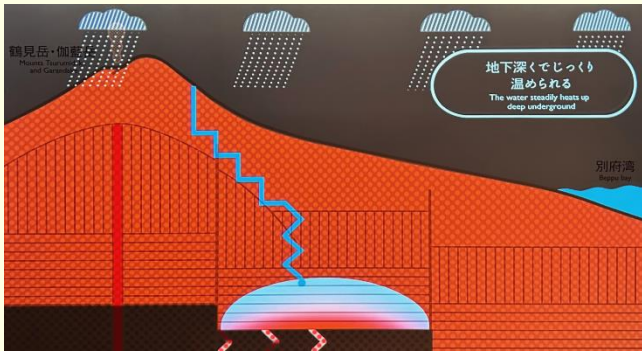
2023年 10月(多言語版 第85号)



～別府温泉の歴史が学べる新しいスポット～

地獄温泉ミュージアム 別府市

有名な「海地獄」のある別府鉄輪温泉地区に2022年11月、「地獄温泉ミュージアム」という新しい観光名所がオープンしました。ここでは、温泉水がどうやってできるのか、「地獄」と呼ばれていたこの場所がなぜ多くの人が訪れる温泉地になったのかについて、芸術性の高い展示室で楽しく学ぶことができます。今回はここに取材に行ってきたお話をしたいと思います。



ミュージアムを訪れる前に、温泉のメカニズムを少しでも知っておくとより楽しむことができます。「温泉」とは、雨や雪が地中にしみ込んで様々な温泉成分を吸収したり、または色々な原因(マグマだまりの熱、地下水、塩分など)で温められたりして地上に湧出したものを意味します。ミュージアムではお客さんが雨水となり、温泉になっていく50年の過程を展示で体験できます。



S.1 空からの贈りもの

「SCENE 1」では、雨が降って地面にしみ込む過程をプロジェクションマッピング(ビームプロジェクターを利用して壁や物に映像を映すこと)で紹介しています。より効果的なプロジェクションマッピングの活用のため暗い部屋で映像を視聴するので、どの角度からでも楽しめますが、日本語と英語字幕のみだった点は少し残念でした(映像の内容が気になる人は、韓国語パンフレットを参考にしましょう)。



S.2 50年もの地球の旅

ミュージアムで最も広い「SCENE 2」では、雨水が地中から様々な温泉成分を吸収する過程を3つの部屋で体験できます。赤いカーテン、色とりどりの照明、鏡などの素材を活用し表現した50年の地中の旅の体験や、受付カウンターで配布する台紙でスタンプラリーを楽しむことも可能です。

WHAT'S UP, OITA!



왓츠업, 오이타!



S.3 人や文化との出会い

「SCENE 3」では、地中の旅を終えて地上に温泉をどのように活用し、「地獄」と呼ばれていた場湧き上がった所を現在のような温泉地に作り上げたのか、その歴史について映像で紹介しています。このシアターは、まるで大浴場の中にあるようなデザインになっています。映像が終わり、スクリーンが巻き上がった先にある窓の外には、巨大な湯けむりが見えます。かなりインパクト強いのでぜひ見てください。



S.4 今、そして未来へ

「SCENE 4」では、多様で新しい取組を通じて別府・鉄輪温泉の未来を考える企画展示などを行っています。今年の11月30日までは「地獄祭展」が観られます(2021年の地獄祭で使用された衣装やデザイナーの廣川玉枝さんが風土のリサーチのために収集した物などを展示)。

📌 スタンプラリー

個人的にミュージアムで一番楽しかったのは、「SCENE 2」でやったスタンプラリーです。展示室



内ある多様な温泉を象徴する色の湯けむり形のスタンプを探して、配られた台紙にスタンプを押していくのですが、自分(雨粒)がどんな泉質になったか判定してもらえます。台紙には別府の町並みが描かれており、スタンプを押す位置によって自分だけの別府湯けむり風景を作ることができるので、より楽しく温泉地の歴史を学ぶことができました。

地獄を「見る」ために何回も訪れた別府ですが、ただ見るのではなく、初めて有益でユニークな学び方で詳しく勉強することができて良かったです。

地獄温泉ミュージアム

- 住所 別府市鉄輪321-1(〒874-0045)
- お問い合わせ 0977-84-7858(日本語)
- 営業時間 09:00~18:00
(最終入場 17:30)
- 定休日(年間4日程度)
- 一般料金 大人1,500円 小人1000円

温泉の魅力を満喫! ～別府地獄めぐり～



別府市は温泉で有名で、浸ることができるだけでなく、見て楽しむ温泉もあります。別府市の代表的な観光スポットの一つとして、地獄めぐりは絶対に行きたい場所だと思います。

別府駅からバスに乗って海地獄に着いたら、まず地獄めぐりのチケットを購入します。入場すると、最初に目に入ったのは美しい池で、色とりどりの熱帯睡蓮が咲き誇っています。周りは緑に囲まれ、まるで中国の江南の庭園にいるようです。池の周辺を歩き、もう一つの庭に入ると、熱気と硫黄の臭いが漂ってきます。海のように青い池が広がり、湯気が漂っており、まるで仙境のようです。看板によると、この池の水温が98度もあるとのこと、海地獄と呼ばれる所以なのでしょう。

海地獄で美しい写真を撮りっぱなしした後、出口で地獄の名物である極楽饅頭を買って食べました。とても小さくてかわいらしい饅頭です。出口の右手には鬼石坊主地獄があります。ここから噴き出る温泉は泥で、まるでセメントが泡立っているようで、温度は99度にも達するそうです。坊主とは和尚のことで、「鬼石坊主」と呼ばれるのは、絶えず泡立つ熱泥が和尚の頭のように見えるからだと言われています。

鬼石坊主地獄を出て少し歩くと、3番目の地獄である「かまど地獄」に到着します。入り口の前には大きな鍋があり、その上には真っ赤な鬼が座っています。日本の鬼は中国のとイメージが異なります。この鬼の彫刻を見れば、日本の鬼の姿がわかります。ここには水温泉、泥温泉のほか、飲める温泉や美容効果のあるフェイス蒸しの温泉もあります。疲れたら、小さな売店で温泉卵や醤油プリン、アイスクリームなどを買って食べ、足を温泉に浸してリラックスできます。

次は鬼山地獄で、ここにも鬼の像があります。温泉の池からの湯気が非常に多く、池の全貌がほとんど見られないほどです。さらに驚いたことに、池の周りに大きいワニが多数飼育されていることです。温泉の熱を活かしてワニを人工的に飼育する日本初の場所だと言われています。週末の午前中に訪れると、ワニが餌を奪い合う様子を見ることができそうです。



温泉の魅力を満喫! ～別府地獄めぐり～



5番目に行ったのは白池地獄です。温泉の池の水は青白色で、まるで中国のホータンヒスイのようです。和風の庭園と穏やかな温泉の池を見て心が洗われる気持ちになります。すぐ近くには熱帯淡水魚の水族館があり、アマゾン川から来た巨大な魚であるピラルクなど、さまざまな珍しい魚が飼育されています。

以上、5つの温泉地獄スポットは1か所に集まっています。

その後、バスで血池地獄と竜巻地獄という2つのスポットに行きました。

血の池地獄の温泉は情熱的な赤色で、湧き出ている粘土から作られた「血の池軟膏」は、いくつかの皮膚病に対して非常に効果的だそうです。龍巻地獄は間欠泉で、100度を超える噴気と熱湯が約30分ごとに6～10分間噴きあがります。絶え間なく跳ねる温泉の噴水は、大地の奥深くからの力と熱を人々に示しています。

今回、私たちは約3時間をかけて雰囲気異なる7つの温泉地獄を訪れました。見て、浸かって、美食を楽しんで温泉を満喫しました。そして、温泉地帯ならではの珍しい光景で温泉への理解を深めました。

最後に、子供たちを地獄めぐりに連れて行く前に、「地獄」や「鬼」といった言葉で子供たちを怖がらせなくて、「美しい温泉を見に行くよ」と言ったほうがいいです。そうしないと、子供は泣いて中に入りたがらないかもしれないのでご注意ください。



別府地獄組合

共通観覧券料金:個人 大人(高校生以上) 2200円
小人(小・中学生) 1000円
営業時間: 8:00-17:00(年中無休)



ノジ in おおいた

国際交流員の日常 vol. 31



ノ・ジョン
作： 盧 知榮
(Noh Jiyoung)

アンジと

ホン

2話

-完-



喜んで「私に会いに」海外まで来てくれた二人には大分のあれこれを楽しんでもらい、



すし〇で
36皿食べた



高崎山の猿が
アンジの足の間
2回も通った



地獄温泉
行った

3年前、国際交流員の合格電話を受けた日
偶然みんなでご飯を食べていたので

2020年
2月のある日



ねえ…
待って
なんか
この電話さ
…!



大分のお土産も沢山買わせて(!)
韓国に帰らせた(笑)。

おすすめ
したら二人とも
買ってくれた



県鳥だと
説明したら
買ってくれた



二人は私の来日を誰よりも早く知り、
「絶対に会いに行く」と言ってくれて

よかったねー!



私のために海外まで駆けつけてくれる
友達がいることに本当に感謝し、
自分もそのような人になりたいと思った!

完

この場を借りて
あらためて
言わせて!



アンジ、ホン
ありがとう♥

コロナがだいぶ収まった今年の7月に
本当に大分に遊びに来てくれた。



あ

アンジとホンは
10年来の友達。
この友情を記念
したくて描いた
特別編、終わり!

from our Reporters 国際交流員だより



◆ アートは考えの幅を広げてくれる

ノ・ジョン
韓国国際交流員 盧知榮

あまりアートに詳しくない私ですが、作品を見ることは好きです。先日、大分市美術館でイギリスのアーティスト「バンクシー」を含め、国際的に有名なアーティストの作品が見られる「MUCA展」が開催されました。60点以上の作品の中でバンクシーの彫刻作品「アリエル」が記憶に残りました。歪んだビデオ画像のように作られているこの作品は「テレビで放映されている明るい子どもたちへの約束が、空虚な視覚的物語であることを暴いている」という意味が込められているそうです。なるほど、アーティストの意図を理解したら、驚きの感情だけではなく、色々と考えさせられました。このように展覧会は考えの幅を広げてくれるので、皆さんもたまにはアートに触れてみてはいかがでしょうか。



◆ そもそも「芸術」って何なんだろう・・・

アメリカ国際交流員 オースティン・ヴォーン

僕は正直、生で芸術をみることにあまり興味がないです。別に嫌いというわけじゃないけど、なんか芸術作品を見ると、「これ、いいな」くらいしか感情がわきません。それはもしかして美術館で見て、パソコンの画面を通して見ても別に何も変わらないと感じているからかもしれません。でも、「Art Fair Beppu 2023」は違いました。なぜなら芸術家がちゃんとその場にいたからです。作品の制作者がいて、作品の説明を聞くだけでなく、作品への情も直接感じられてとても素敵だと思います。それに、友達と一緒にいったから、みんなと感想を交わしたあと、制作者の説明を聞いて、誰が一番合っているのかを比べるのも面白かったです。しかし、一番印象に残っているのはペア通訳をしたときです。フェアのスタッフが韓国の芸術家の言葉を日本語へ、僕がそれをさらに英語へ通訳しました。シユールな場面でした。



◆ 中秋の名月

ヨウ・コウカ
中国国際交流員 楊江華

テレビで「月見バーガー」のCMを見ました。月を見上げることで、大切な人とつながることに喜んでるシーンを見て、なんだか心温まる気がします。日本では、旧暦8月15日の十五夜を「中秋の名月」と呼びお月見をする伝統行事はまだ残っているようです。

中国では、中秋節は「団円（団らん）節」とも呼ばれて、身近な家族が集まって月餅を食べながら一家団らんのひとときを楽しむ祝日です。今年の中秋節は9月29日で、10月1日からの国慶節と合わせて8日間の大型連休になります。夫に日本に来てもらいたいが、「実家に戻って両親と過ごしたい」と告げられました。異国で一人で中秋節を過ごすのはちょっと寂しく感じますが、コンビニで月餅が見つかって少しうれしくなりました。



あなたの活動を世界に紹介しませんか？

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、
世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！
(様式は任意です)

【記事提供／お問い合わせ先】

国際政策課 担当: 生野、中山

【Mail】a10140@pref.oita.lg.jp

募集中!

